

第4回 羽村市産業振興計画懇談会 会議録	
日 時	令和8年8月28日（金）午前10時～午前11時40分
会 場	羽村市産業福祉センター iホール
出席者	座長 進邦徹夫、副座長 山下敬一 委員 城 裕昭、中条 悟、田村 聖、安田英司、瀧島忠典、坂本順市、清水亮一、青田昇一、中村勝司、芳賀啓一、星野亜弓、平塚徹也、田中 誠、鬼塚昌和、鈴木 茂 事務局 産業環境部長、産業振興課長、商工観光係長、商工観光係主査、農政係長、商工観光係主任
欠席者	田村 栄委員、河野浩邦委員
議 題	1 議事 (1) 第三次羽村市産業振興計画策定にあたって (2) 課題解決に向けた各産業分野の方向性 2 その他
傍聴者	1名
配布資料	・【資料1】第三次羽村市産業振興計画の策定にあたって ・【資料2】課題解決に向けた各産業分野の方向性
会議の内容	第3回産業振興計画懇談会会議録の確認 （事務局）事前に確認いただいた第3回産業振興計画懇談会の会議録（案）について、訂正等はあるか。 －訂正なし－ 訂正等がないようなので、今後、市の公式サイトなどにより公開していくこととしたい。 傍聴の確認 （座長）傍聴人の確認をする。 （事務局）本日の会議には、1名の傍聴希望者がいることを報告する。 （座長）それでは、1名の傍聴希望者がいらしているとのことなので、皆様にお諮りする。本日の会議は全て公開とすることによろしいか。 －一同、異議なし－ それでは、全て公開で決定する。傍聴希望者は入室してください。 －傍聴者入室－ 早速、会議を始める。 1 議事 （1）第三次羽村市産業振興計画策定にあたって （座長）議事の1「第三次羽村市産業振興計画策定にあたって」を議題とする。これまでに3回懇談会を設けて、委員の皆様から御意見をいただいております。改めて産業振興計画の趣旨等を確認させていただきたいので、事務局からの説明をお願いしたい。 （事務局）【資料1】説明 （座長）事務局から説明があったこの件に関し、委員の皆様は御意見を伺う。 （委員）念のため確認させていただきたいのですが、この資料1は事務局が懇談会委員に示す策定に当たっての方向性の資料という理解でよろしい

か。将来的に外部には示さない、今後公開しない資料と考えてよろしいか。それと資料1の5「いただいた意見について」の4行目の「生かしていくために」の生の字は、活力の活の方が良いかと思うがいかがか。

(事務局) 資料1については、提言書を作成する上で委員の皆様に再確認していただく意味で作成したものである。また、資料については計画とはまた別の形で公開をしていく予定である。生かすの漢字については、活用の活に訂正をさせていただく。

(座長) 他の文書との兼ね合いや、他の行政計画との整合性を図る必要があると思うので、それと足並みをそろえる形で修正や訂正をしていただければと思う。他に御意見はいかがか。

ー意見なしー

それでは、この資料1を基本にしながら提言をまとめていきたいと思う。続いて議事2の「課題解決に向けた各産業分野の方向性」に移りたい。これまでの懇談会で工業・商業・観光・農業の各分野の現状と課題についていただいた御意見やアンケート、ヒアリングを踏まえて課題解決に向けた各産業分野の方向性というものを、資料2でお示しいただいている。この資料の課題解決に向けた各産業の方向性を軸に、第三次羽村市産業振興計画案策定に向けた提言を作成していきたいと考えている。そこで、この課題解決に向けた各産業分野への方向性について、事務局から説明いただいた後に御意見を伺いたい。それではまず、工業分野から順番に説明をお願いしたい。

(事務局)【資料2】説明

(座長) 事務局から説明があった資料2の「課題解決に向けた各産業分野の方向性」を基盤として、次回以降の懇談会で作られていく提言書のたたき台として御意見をいただきたいと考えているので、この資料について例えばここが抜けているとか、こういう表現がいいのではないかとといったような御意見をいただければと思う。具体的な施策提案を数多くいただいているが、個別の具体的な施策については、先ほど事務局から説明があったように、別途策定する実施計画に生かしていきたいと考えており、各産業分野の方向性についての御意見をいただきたいと思うがいかがか。

(委員) 資料2の工業についての6「行政支援の最適化と差別化」の差別化というのは、企業誘致において、他市ではなくて羽村市を選んでいただくという意味であるのか。それから「支援制度の認知度向上、羽村市独自の戦略的施策の構築」とあるが、戦略的施策の構築とは具体的にどのような施策を想定しているのか。この二点伺いたい。

(事務局) 羽村市独自の戦略的施策の構築とは、羽村市の特性や課題に対応しつつ、他の市町村と差別化をした、羽村市だからこその支援を指しています。結果としてそれが企業誘致にもつながるかと思われる。具体的な施策としては、例えば工業地と住宅地が近いといった特性を生かした働きやすい環境づくり支援として、託児施設と連携した補助であったり、通勤環境の整備支援であるとか、企業と地域のつながりを重視した支援として、地元人材の確保や定着に向けた地域と企業をつなぐコーディネート機能

などが羽村市独自の戦略的施策の構築として想定されると思います。ただし、これらは現時点での構想であり、今後、この懇談会での御意見や市内企業へのニーズ調査を通じて、より具体的に検討していきたいと思っている。

(委員) 工業の内容について、いくつか質問や意見をお話ししたいんですけども、まず1「人材確保と育成」ですが、高齢者について、市内に住んでいただくといった職住近接を想定されるのであれば、高齢者が賃貸で部屋を借りるのは結構大変な状況がある。若い人は割と問題なく借りられるが、高齢者が借りるとなると条件が厳しいので、そういったところの支援策も考えていただければいいかなと思う。また、使い古された言葉ではあるがリスクリングについて、他の業種からまた新しいことを始めるに当たってそういったことの支援も考えていただければいいかなと思う。それから3「デジタル化への対応と支援拡大」ですが、AIについてのお話がありましたけれども、どこもまず使い方が分からないといった課題がある。特に中小企業に多いと思うので、試しながらいろいろ試行錯誤して使うというのでもいいのですが、時間ばかりかかるので、できれば専門家を入れていただいて指導してもらいたいようなことをやってもらえればいいのではと思う。あと、成功事例を共有する仕組みを作ってもらいたい。中小企業というのは、特に事務とかそういうことは大体内容が似ているので、ある企業で成功事例があったら結構水平展開できることが多いと思うので、単独の事業所に支援するというだけでなく、成功事例を吸い上げてこういうことをやるというんですよ、ということで広めてもらえればと思う。それから4「外国人人材の活用と定着支援体制整備」ですが、これはそもそも対象者は市内で就業している外国人の方という理解でよろしいですか。単純に市外で働いていて、市内に住んでいる方もいると思うのですが、ここで言っているのはどういうことであるのか。

(事務局) 市内で就業される外国人人材を想定している。

(委員) そうすると、やはり雇用している企業と協力して行うことも必要だと思う。そもそも日本のことをよく理解していないことがベースにあり、日本の生活文化やマナーがわからず、地元の人と意図せず軋轢が起きてしまうということもあるので、雇用している企業と連携して窓口を設けて、そういったことも教えてあげるといった支援を行うと効果が高いのではないかと。6「行政支援の最適化と差別化」の支援について、支援の対象が新しく来る人だとか、新しく拡張する設備だとかいうことに目が行きがちだが、多くの中小企業は同じような設備を長年使っていて、更新するということがあるが、意外とそういったものに対する支援がない。そういった今までと同じように地元でコツコツやっているとか、安定してやっているそういった中小企業に対する何らかの設備更新の支援というののも考えていただけるといいのかなと思う。多分、長年大事に使っている設備が多いので、償却資産としてもかなり償却してしまっており、そこが更新できれば新たな税収にもつながると思うので、例えば固定資産税の減免だとか、そのようなことも含めて何か考えてもらえればと思う。7「企業誘致と戦

略的業種選定」でデータセンターの話があったが、羽村市が計画する CO2 削減計画について、早々に検討していただきたい。データセンターの稼働に伴い排出する CO2 は膨大で、これまでの政策も全く無意味になってしまう可能性がある。環境に影響の大きい企業の誘致に対応した、計画の見直しが必要である。

(委員) 商業について、3「企業への個別支援の取組強化」と6「各企業の課題に寄り添ったきめ細かい行政支援の充実」は重なっている部分がたくさんあるような気がしているが、これは何か違いはあるのか。それから7「羽村駅西口を中心とした商業活性化」だが、これは表現の問題になってしまうのかなと思うが、何を意図して羽村駅西口を中心という表現をされたのか、商業そのものは羽村の西口以外にもあるなかで、全体の商業を活性化させていくという意味において、これからまちづくりをしていく上で方向性が定まっていない西口駅前を中心とした商業という表現をあえてここで用いたその理由というものを聞かせていただければと思う。

(事務局) 現段階では、羽村駅西口を中心としたと書かせていただきましたが、確かに御指摘いただいたとおり、羽村市全域のことを考えていく計画ですので、記載や表現について検討していきたいと思う。また、3と6についてですが、確かに御指摘のとおり、重なる部分もあるかと感じましたので、記載について検討します。

(委員) この懇談会の方向性について少し意見したい。産業振興計画懇談会であるから仕方がないと思うが、毎回出ているテーマというのはほぼ同じであり、プラン・ドウ・チェックでこの計画に対して何を行ったか、そして最終的に5年後にチェックをしたものを次の懇談会の第1回目に教えてもらわないことには、堂々巡りだと思う。過去にも産業振興計画の懇談会に委員として出席しているが、同じことを繰り返している。ですから、正直言うと時間の無駄だと思う。せっかくいい課題が上がっているながら、結局何もしないでスルーしてしまえば、また次も同じ課題が出てくるだけなので、プラン・ドウ・チェックでチェックしたものを5年後に産業振興計画でこういうことをしました、それによってこういう結果が出ました、そして次の5年間はどのような形式にしないと、この懇談会自体の意味が少し薄れていくような気がする。少しきつい言い方であるがどうか。

(事務局) 確かに委員の御意見のとおり、懇談会で御意見を聞いて終わっているというような印象が少しあると思うが、毎年度策定する実施計画の中で事務事業レベルの施策について、プラン・ドウ・チェックの仕組みはある。ただ、確かに結果をこの懇談会でお示ししないといけないというのは、ごもっともですので、今回はこの形で進めさせていただくが、今委員からいただいた御意見や進め方などについて、次期懇談会の課題とさせていただきます、しっかり引き継いで対応していきたい。

(座長) 計画策定後のPDCAはすごく大事なことであって、最近KPIを用いて、目標を達成するための過程が順調かを測るための中間指標を定めて管理、評価する手法があるが、数値目標を立てると、その数字に対して達成できていないのではないかと市民に怒られるのではないかとというよう

に懸念をされると思うが、決してそういったことではなく、どうやったら良くなるかということと一緒に考えていただくような市民の方がほとんどだと思うので、数値についてはある程度上げていただきたい。もちろん無茶や無理な数字を上げる必要はないが、今回の提言あたりから、数値を設定していただくというのはありかなと思う。

(委員) 今のお話大変ごもっともなことだと思うので、冒頭の資料1の4のところに「今回のその提言を受けて、別途実施計画などを策定することにより、進行管理をしていきたいと考えております。」と書かれているので、「進行管理をして、次回に報告する。回次の懇談会に報告する。」など、そういうふうここに明記したら良いのではないかな。

(事務局) 委員のプラン・ドウ・チェックの件ですが、現在は、令和8年度までを計画期間とする第二次産業振興計画に基づき施策を展開しているわけですが、第1回と第2回の懇談会におきまして実施計画で掲げた事業の進捗状況というものを、こんな実績があり、また計画どおりに進んでいるといった進捗状況をお示ししていますが、御指摘をいただきましたので、次回以降はもっとわかりやすく、御説明できるようにしたいと思います。

(委員) 今回の懇談会は非常に重要な回だと思っている。提言のフレームなのでごく細かいところも大切であり、「など」という表現について、私は仕事をしていく上で文章を作成するときに、この「など」とは何を想定するのかを考えて文章を作成していた。3ページの1では「農業や観光など、」となっていて、これを読んだときに工業が落ちていると思った。しかし工業は「など」に入っていると思ったほか、スポーツイベントや地域イベントを想定しているのかなと思った。この「など」はどのようなことを想定されているのか教えていただきたい。

(事務局) 確かに「など」と書くと、何を想定しているのかという話になると思いますが、ここに限定しない意味で、この「など」という言葉をあえて使っています。他の部分についても「など」の標記が適切かどうか、前後の文章や意味を確認し、判断していきたいと思っています。

(委員) 引き続き「など」ですが、4ページの1「情報発信の強化」のところの「X・Instagram等のSNSのほか、市公式LINEを」となっていて、ここで私が引っかかったのは、私は市の公式LINEやメール配信サービスを利用して、非常に役に立っている。「Instagram等」で2回繰り返しになってしまい、そこは文言の整理が必要になるが「LINE等」にしたら良いのかなと思った。

(事務局) 情報発信のツールには、LINEだけではなく、メール配信サービスも含んでおりますので、「等」の使った標記を検討したいと思います。

(委員) 工業とか商業とかいくつかに渡るのですが、まず、委員から御指摘があった「等」みたいな話と関連するが、資料2の表紙に工業・商業・観光・農業という四つの産業分野があって、これはこれまでの前例を見て、この分野に分類していると思うが、昨今出てきているキーワードで「DX促進」とか「AIの台頭」みたいな話があり、「情報産業」という分類なのか「DX産業」という分類なのかわかりませんが、昨今新しい企業が起きるといった場合に、ほぼこの「IT」とか「DX」を使った産業、ある

いはコンサルタントといった業種が生まれている。羽村市は東京都に立地しており、特にそういう東京都内で新しく起こる産業っていうのは、ほぼDXを何かしら活用しているといったものが多いということも踏まえて、先ほどのデータセンターの誘致みたいなものも関連するのですが、産業分類がこの四つでいいのでしょうかということをこういう懇談会ですので御指摘をさせていただいた。その上で、この四つの産業分類で整理するということなのか、新しい産業分類を検討するのかというのは課題かなと思った。あと、工業の6の「行政支援の最適化と差別化」で「羽村市独自」という御指摘が委員からあったと思うのですが、私が各自治体といういろいろお付き合いしている中で、羽村市がすごいなと思っているのは、産業振興課に企業巡回の担当者が4人常駐していて、市内の企業を巡回して企業のお困りごとを聞いて、それに向けて解決するというのは、羽村市独自だなというふうに思っていて、他の自治体でも外部に委託しているところもあるかもしれないが、市が独自でこのスタッフを抱えて企業巡回しているというのは独自の政策だなというふうに思っているのので、是非先ほどのKPIの振り返りみたいなところでいくと、こういう結果があってこうみたいなのはやはり示していく必要があるかなと思った。また、委員から御指摘があった工業の3、4のあたりですか、デジタル化への対応や外国人材の活用ですが、おそらく既にここに敏感になって導入して、ある程度成果を上げている市内企業がいると思います。例えば、地域未来牽引企業に指定されているような会社などはわりかしそういった感度が高い会社が多いので、そういった市内企業にも協力をいただきながら、事例を市内の皆さんに発信していく。その役目を羽村市の皆さんで検討して実施に移していただくみたいなことが必要かなと思った。

(委員) これだけのいろいろな提案があってとてもすばらしいと感じたが、実行ベースで落としていくとすると、やはり強弱だとか優先順位だとか、ヒト・モノ・カネをうまく調整して、いろいろなところを巻き込んで推進していく力が大事かなと思い、発言させていただいた。また、今、人口がどんどん減っている。東京都全体では増えているが、西多摩地域の8市町村は8年度と7年度の4月で比較すると全ての市町村で人口が減少している。そうすると、市にとっては、市に移住してきてください、移住してきていただくためには、市の魅力を見てください、保育園の体験をしてみてください、こういう観光地がありますよ、こういう商業施設がありますよ、こういう産業がありますよ、というのをPRしたり、例えば23区に行ってプレゼンテーションをしていくとか、そういう本気度というんですかね、そういうところをやっぱり推し進める中で、工業・商業・観光・農業を推進していくとか、そういったいろいろな一体的な動きが必要ではないかなと思った。

(委員) 全体を見て思ったことなんですけども、先ほど委員からも、この四つの産業分類で進めていくのかという話もありましたが、ぱっと見て課題解決の方向性の数がそれぞれの産業によって違い過ぎるような気がしていて、2回目、3回目の懇談会でそれぞれ同じ時間で皆さんいろいろお話

をされていて、方向性としてもいろいろ出てきているはずなので、例えば工業、商業が7つで、観光が三つだが、先ほど委員がおっしゃっていた文章がかぶっているものがあると思いますし、粒度が多分合っていないというところもあるかもしれない。ぱっと見たときに、多分大体同じぐらいの数でそろえた方がいいのではないかという気がしたので、御提案をさせていただきたい。

(委員) 私の理解を先に共有させていただくと、結局、問題は人手が不足しているとか、事業が継続というか承継できないとか、DX ってよく出ますけどデジタルのそういういろいろなことが遅れているとか、こういうことをずっと言っているんだろうなと理解している。プラスで言うと、産業間の連携だとか、地域のブランドは強化しなきゃいけないよねとかそういったことをいろいろなデータとか情報とかで資料にまとめているんだなというふうに理解している。それを踏まえて私の考えとかイメージを言うと、次期の産業振興計画は3回目と聞いていて、一回目からどんな課題があったか今調べてみたら似たようなことをずっと言っている。いろいろな方が参加されて、議論をしてこういうふうにするばいいんだと決めて、実際に5年ずつやってきたんだと思う。ただ、今同じ課題が出てくるということは、良いとか悪いとかではなくて、結果だけ見ると、すごく簡単に言うと、今までやってきたことが駄目だったんだと思う。今回、三回目なので、本気で意識も変えなければいけないのではないかな。前回発言したが、パラダイムシフトというのが世の中もう進んでいて、前回馬車の話しをしたが、そういう意識改革を本気でしないといけないのではないかなと思っている。今回、方向性についてということなので方向性を考えてきたのですが、その前にそういった意識を皆さんで合わせなければいけないのではないかな。パラダイムシフトを考えるに当たって、やはりこれから未来がどうなるのだろうということをベースに考えるというのが大事なので、これまでの馬車にどんな問題があるのかなとか、どうすれば馬車が使えるかなとか改善しようかな、とかではなくて、未来はこうなるから、それに向かって何をしていくのかという議論をする。これがパラダイムシフトの考え方。では、未来とは何だというと、これは非常に難しいと皆さん言いますが、実は二つ確定している未来があるので、それを皆さんと共有したい。一つは、人口の減少です。皆さん御存知だと思いますけど、日本の人口はかなり前から毎年0.4%くらい減っている。政府の方針として移民政策はやらないことが基本政策なので、人口は増えない。問題は少子高齢化と出生率だが、これを改善しない限り、日本のパイというのはそもそも増えない。これから5年の計画を立てると思いますが、5年に渡って人口は必ず減っていくことは確定している。なので、これをベースに考えなければいけないのではないかなというのが一点で、もう一つは、先ほど話に出ていたがAIです。これは必ずこれから1年2年3年後、どんどん活用して普及していくもので、今からAIをやめようねなんて絶対にならない。来年再来年はもっと使われているし、もっと便利になっていると思います。AIについて、二つのことが起こるといわれてい

て、一つは効率化というか、人の代わりになるということで、繰り返している作業や検索、調査だとか文書を作るだとかこういったことで人がやっていたことがAIに代わる。これが一点目である。もう一点は、AIの拡張と世の中が言い始めたが、AIがデータをベースに提案をするようになる。もっとこうした方がいいのではないかと、こういう改善があるよといったように、エビデンスをベースに提案までしてくれるというのが二点目である。この二つが今後起きるだろうというふうに思われていますし、実際起き始めている。言いたかったことは、パラダイムシフトという意識を皆さん持ちましょうということです。今までのやり方の延長線上だとか、今までやってきたことを繰り返すだとか、そういうことはもう一切やめましょうと未来をベースにして、こういうことをしていけばいいのではないかという方向性、これを是非皆さんと決められたらなというふうに思っている。

(委員) 4ページの観光のところの2「名産品の開発」と3「体験型イベントの開発」のところはそれぞれ「名産品の開発検討」「体験型イベントの開発検討」とされた方がいいのかと思った。文書全体の整合性を見て、変更するか検討していただきたい。細かいことは別にして、今日議論させていただいてこの後も懇談会がありますが、どの段階でこの資料2が確定稿になるのでしょうか。今回いろいろ御意見いただいています、スケジュール的なものを確認させていただきたいと思う。

(事務局) 今後の予定ですが、本日この資料2と懇談会でいただいた御意見、またアンケート、各ヒアリングこれらを基に提言書の案を作成をしたいと考えている。次回の第5回以降に提言書の案について、また更に御意見をいただいて最終的に第7回を最後に予定しておりますが、第7回で最終的な提言として完成させたいというスケジュールで考えています。

(座長) 他に御意見についていかがか。これまでもいくつか出てきているが、各産業分野の方向性というのは今回お示しいただいているが、全体としての包括的な議論というか、この産業振興計画を策定するに当たって産業というものをどうするかという視点は何かございますでしょうか。

(事務局) 基本的にこの四つの産業分野の視点で策定するのか、それとも追加するのか、というお尋ねでよろしいでしょうか。

(座長) 工業・商業・観光・農業があって、その上に何かあるかということをお聞きしている

(事務局) これまでの計画の中では、羽村市の産業として、基本的に工業・商業・観光・農業という四つの分野に分類分けをしているという形態をとっている。

(座長) その分類ということではなくて、産業振興計画全体として市の産業はこうするんだという、そういう方向性はありますか。

(事務局) 大枠の方向性ということで、それについては、当然この四つの分類の前にありますので、そこは検討して計画の中で作成していくものではありますが、基本的にこの懇談会の中では、皆さんから分野ごとに御意見をいただいているところである。

(座長) これまでの議論の中でも、例えばDXであるとか、あるいはブランディングの話はどこでも必ず触れられており、結構大きな話だと思う。別の自治体でDXの話をしたときに、DXイコールデジタル技術みたいな理解をしている自治体があったので、それは違いますよということを言ってしまうと少しストレートに言い過ぎてしまったことがありましたが、そういう理解しているケースもありますし、DXは必ずしもデジタル技術だけではなくて、組織も変えていく、それこそ先ほどお話があったパラダイムシフトではないけれども、それほど大きな力を持っているんだということなので、DXの言葉の使い方を含めて、DXを各分野で展開していくんだということもあるでしょうし、ブランディングというのは多分、商業だけでブランディングしましたといっても、成功は絶対しない。各分野で通用しないといけないと思うので、そういう意味では四分野の上位の市の産業のところでブランディングについて触れたらよいかと感じた。また、産業連携であるが、これもどこかの分野だけ勉強しますといっても、他の分野が同じ方向を向いて相手にしてくれないと困ってしまうので、全体の産業の方向性として産業連携を推進していくようなことをどこかに書いた方がいいのではないかな。そのときに主役になるのは市役所だと思う。行政が中心になってやっていくように、音頭を取る人がいないといけないと思う。そういう方向性を示すという意味で、産業分野の方向性の上に産業政策の方向性というものも置いていただくといいかなと思いますし、産業振興課だけでブランディングしますよといっても、これまたもったいないことになってしまうので、行政全体で進めていくといった、そういう方向性というのが見い出されるといいと思う。

(委員) 今日は方向性を提言するに当たって、先ほど話しましたけどちょっと方向性を考えてきたことがあるので共有させていただければと思う。背景を伝えたほうがうまく伝わると思いましたので、どうやって考えたというのをまず簡単に説明すると、やはりうまくいっているところを参考にするというのが手っ取り早いんだろうなと思った。ゼロから考えるのは結構大変なので、うまくいっているところがあるならそれを参考にすればいいのではないかなというのが私の考え方です。有名な話なので御存知の方も多いと思うが、20年くらい前かに成功した事例があって、私の好きな事例なので二つ紹介させていただきたい。方向性を考えるに当たって、一つは徳島県の神山町という当時人口5,000人くらいの過疎地域があって、メディアにも大きく取り上げられた事例ですが、何を行ったかということ、行政が村全体に光ファイバー網を引きました。簡単にいうとそれだけやりました。その結果、IT企業の誘致につながり、サテライトオフィスということで来まし、それに伴って移住が促進された。今でいうと羽村市で行うのであれば、Wi-Fiですかね。小さい市で利点があるので、市全体に高速なWi-Fiを引いて、具体的な実施策はこれから計画ということなので、そうしようと言っているわけではなくて、そういったことをやった事例は参考になるだろうと思います。もう一つは、岡山県の西栗倉村で、人口が1,300人くらいの村で危機的な状況で村が消滅してしまうのではないかな

と当時言われていたが、ある取組みが大成功しました。何をしたかという
と、林業に力を入れた。村のほとんどを山が占めていたので、これを生か
していこうということだと思うのですが、具体的に行政は何をしたかとい
うと伐採の計画だとか、そういったことをきちんと計画して方針を立て
た。まず、木とか森林とかの計画を国際基準の認証にトライして、国際認
証を獲得し、その林業が国際的に非常に評価された。それをベースにどう
したかという、その木を使って家具を作ったり、家を作ったり、いろん
なものを作ったりしてブランドというかですね、高付加価値のものを作る
という戦略にした。それで余った部材とか使わない木も、エネルギーにな
るんじゃないかということで、地消エネルギーというんですか、要するに
エネルギーにも使った。これ何を言っているのかというと、羽村でいうと
水だと思うので、水を市がきちっと管理して、何か国際基準があれば、そ
ういう認証を取ってですね、その水を使った農業だとか、レストランだ
とか、飲食だとか、高級なブランドを作って展開をして、余力があれば水力
の電気に変えるみたいな。そうしたいって言っているわけではなくてそう
いったことをやるとうまくいったという、これは事実として事例がある。
私の考える、羽村の中長期の5年の計画での方向性は何かということ、やは
りAIだと思う。AIに特化してしまえばいいのではないかなと考えます。
AIと共生をしていくという、それにもフォーカスしてもいいのではないかな
と思う。というのもこの二つの事例の共通点は、個別最適な改善だ
とか課題だとかそういう解決をしていないんですね。どこかの工業の課題
を解決するだとか、どこかの農業のこの課題を解決するというのではなく
て、戦術ではなくて、戦略しか立てていないんですね。なので、そうい
う細かいことをいちいち行政とかが決めるのではなくて、戦略であるこ
ういったことをやっていこうという方向性を示せばいいのではないかなと
いうことを考えている。結果として、もちろん農業の発展にもつながりま
すし、工業の発展にも商業の発展にも観光のアピールにも結果としてつな
がっていくので、個別最適なものを行政が狙っていくというよりは、イン
フラだとか仕組みだとか、そういう戦略的なものにフォーカスして、今後
力を入れればいいのではないかなと思う。具体的に何に力を入れるかって
いうと、AIにシフトしてしまっているのではないかなというふうに思っ
ている。なので、方向性としてはもうAI一択で、何をしていけばいいの
かということ、三つもう少し細かく具体的な方向性があるのではないかと
いうことを言って終わりにしたいと思う。よく言われることであるが、一つ
は「デジタルAI」と呼ばれているものである。これは今まで私が言ってき
ましたけどプラットフォーム化しようだとか、マッチングを用意しましょ
うだとか、そういうことです。マッチングも人と人だけではなくて、人と
物、物と物、企業やサービスもありますし、いろいろマッチングというの
を仕組みとして作っていく。これをデジタルAIでやっていけばいいので
はないか。もう一つは「フィジカルAI（ロボティクス）」ともいう言い方
をしますが、これをやっていくという方向にしていけばいいのではない
か。もう少し具体的に言うとスマート農業と呼ばれているものだとか、デ

デジタルツインだとかいろいろありますが、そういったところに行けばいいのではないかな。先日、テレビを見ていたらNHKで羽村市が取り上げられていて「オイシイファーム」を紹介していた。これを思い切りフィジカルAIを使っていて、あっという間に取り上げられて、全国に放送されていた。そういったところにも羽村はドンと力を入れていくという方向にしてしまえばいいのではないかな。最後にこれもよく言われていますけど「次世代モビリティ」について。これを羽村市はすごくやりやすい環境にあると思っている。具体的には自動運転というのは、もう昔から有名ですが、最近「マース」というモビリティサービスというものですとか、バス・タクシー・シェアサイクルですとか、ドローンによる運送とかそういった次世代のモビリティにどんどん力を入れていくという方向にも舵を切って、具体的に何をするのかは、先ほどからありましたとおり、実施の計画にどんどん落として優先順位とかも決めてやっていくといった方向性でいいのではないかなと思う。なので、誤解を恐れず言うと、何かを補助するとか何かを助成するだとか、今までやってきたことは、先ほど言ったとおり10年間やってきて、結局はうまくいっていないのではないかなと思うので、そういったところに力を入れるのではなく、新たなところに舵を切って力を入れていけばいいのではないかなと思う。国や都が、もうそれをやりますと宣言していて、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略でAIに舵を切りますよと言っていますし、東京都は東京都AI戦略でAIに舵を切ることになっているので、これにも即しているんで、特に大きな問題はないし、あとはやる気と勇気だけあれば、すぐにできることだと思うので、是非考慮していただければなと思う。

(委員) 大枠で見させていただき、イメージでいうと羽村市という枠の中で四つの産業に分けて解決策というのを考えてみましょうというイメージだと思いますが、中には羽村市と連携して、その産業だとか産業同士が連携して何かやっていきましょうというのはあるのですが、解決策って意外に羽村市の外にあるかもわからなくて、外部との連携ですとか、そういう視点もどこかに入るといいかなという気がしている。それが例えば、近隣の市の行政であるかもわかりませんし、あるいは東京都です。前回、前々回の懇談会で独自の何かを作りたいな話も出ていましたけど、羽村市だけではできないこともあると思いますし、連携すれば解決の糸口が見つかるようなものがあるのではないかなと思いますので、この産業別に外部と連携したときの方向性みたいなのを追加していただけると良いかと思った。

(座長) 外部との連携ということで、羽村市と包括連携協定とかを結んでいるような大学は杏林大学の他にありますか。というのは、特に工業の分野なんかで技術開発とか技術革新とか進めていくのであれば、大学の研究室と連携するというのは知恵だと思うんですね。企業でそれを探すってのは、大きいところであればいいとしても、中小企業がなかなかアプローチするのはハードルが高いと思うので、そこに羽村市が間に入るというのはいいかなと思うんですね。そういう方向性がありますか。

(事務局) 主として大学との連携協定を進めているところではありますが、工業分野に特化した連携はありませんが、首都圏産業活性化協会では、大学と連携した事業に取り組んでおり、羽村市でも企業支援等について御協力いただいているような状況です。

(座長) 私も補助金とかを提供していくやり方はもう行政としてはそろそろ終わりにした方がいいのかなと思っている。各単体の企業や事業所でできないことをできるのがやはり行政だと思うので、先ほど御提案があったAIを含めて、それを羽村市がやってくれるよということであれば、事業者もやってくるでしょうし、そうすると仕事もできてくるということで、いい方向に回っていくのではないかなという気がしますがいかがでしょうか。

(委員) 今のお話を伺っていて、委員のお話もそうですし、座長のお話もそうなんですが、我々企業もそうなんですが、やはりどこに進むのかが先がないと一つずつの個別の案件の方向性もやっぱり決まらないと思います。各資料を見ると、方向性という言葉が書いてあるんですけど、この四つの方向性がそれぞれ東を向いたり、西を向いたり、南を向いたり、北を向いたりしていて、一つの組織が同じ方向に進むのですかという話にもなってしまふ。なので、先ほど座長がおっしゃったように、その四つに分かれているけれど、その上に産業というものがあり、この羽村の産業がどこに向かって進んでいくのですかという、この方向性まではやはり行政側がこういう懇談会に落とさなければいけないんだと思う。ビジョンがなかったり、指し示していく方向性が決まらない状況の中で、個別案件について議論をしたら、やはりそれは部分的成果の話になって、全体の適正化の話にはつながっていかない。前回の会議のときにも、私は口頭で羽村市のビジョンは何ですかという話を質問させていただいたときに明確なお答えをいただけなかった。やはり、羽村市の産業がどこに向かっていくのかということを目指さない中で、工業・商業・観光・農業だっという話をしたところで、やはり羽村市として向かっていく道というのは決まらないのではないかというのを改めて、今日お話を伺っていて強く感じた次第です。やはり産業そのものをどちらの方向に向かって進めていくのか。これは我々が話し合って決めることではなくて、行政が決めなければいけないことである。その方向に向かって我々現場レベルの人間が、こういうことができるのではないんですか、ああいうことができるのではないですか、というように提言するのがこの懇談会の場合だと思うので、やはりその順序というものをもう一回見直していただくことも必要ではないかなと感じました。

(事務局) 今回の第三次の羽村市産業振興計画策定懇談会については、この形で進めさせていただいておりますが、ここで懇談会のあり方や進め方をまるっきり変えることは難しいので、委員の皆様から御意見をいただいて、それを抽出して提言としてまとめる形で進めさせていただきますが、次々回以降の産業振興計画の策定に当たってはこういった形になるのかはここで答えが出せる話ではありませんけれど、委員から御意見があった

ことについては私どもも内部で検討させていただいて、こういった懇談会の形がいいのか、今後の課題とさせていただきたい。

(委員) 流れからいった方向性から、今実施計画に落とし込んでいくというところだと思うんですけど、そこはとりあえず今回はということで、それはそれとしてですね、できればその実施計画のときに、先ほどからいろいろ皆さんがおっしゃっているように、そのあるべき姿やこれをやることによって現状がこう変わる。もしくはこういう形にしたいからこういう政策をするという、その関連付けで説明ができるものは、実施計画の中で説明させていただいて、全部が全部は無理だと思うので、単純にこれをやるというその手段だけを明示することもあると思うのですが、こういう形を作るためにやるんだということが言えるものは、なるべくそういった形で、実施計画の中に結果の姿若しくはあるべき姿も落とし込んで作っていただけると、理解が深まるのかなというふうに思った。

(委員) ちょっと感想みたいな話になるんですけど、資料1の2の「計画の位置づけ」というところに書いてあるとおりで、法令で策定が義務づけられているものではなく、市内産業の将来像を見据えてと書いてありますし、市の上位計画である長期総合計画を踏まえた上となっているので、この計画は何かというのを踏まえて議論する必要があるし、先ほど委員から御指摘があったように国とか東京都の構想や計画との整合を図りながらということもあるので、私も何かイノベーションでやっているの、まさしくそのAIやDXでここと何かセットでというのはもう世の中で全般そうになっているので、思い切り舵を切るっていうのもやはり一つの勇気ある決断だと思うのですが、トップがこの市をこういう方向性に持っていきたいのかというビジョンがないと、我々市民というか、メンバーはそこに向かっていくということがなかなか言えないのかなというのがあるので、是非5回目以降そういった議論ができるといいなというふうに思いました。

(座長) 他に御意見についていかがか。進め方自体はこれから大きく変わるということは難しいですし、この懇談会が提示するものっていうのも大きく変わることはないと思いますが、計画自体の作り方というか、構成とかは御意見させていただいてもいいのかなと思いますので、また何か今後御意見をいただくとします。少しまだ時間が早いのですが他に御意見がないようであればここで議論を終えたいと思いますがいかがか。

ー意見なしー

では、本日の議事はこれで終了とします。円滑な議事進行に御協力いただいた。次回の第5回では、今日いただいた御意見を踏まえて具体的な提言の案についてお示しができるかと思うので、そちらを議題としたいと思います。それでは進行を事務局に戻します。

2 その他

(事務局) 円滑な進行、活発な意見交換や御意見をいただき、ありがとうございました。委員の皆様から何かございますか。

(委員) 前回、最後に私が紹介したコドモマーケットについて、少しお時間をいただき報告させていただきたい。先週の土曜日に栄小学校の体育館をお借りし、コドモマーケットイン羽村を実施しました。内容としては小学生が自分たちで考えた商品を子どもたちが売る。保護者はそのお手伝いで

来ていて、実際の接客とかの口出しをしないで、50組の子ども達がお釣りのやり取りとかを全部行いました。商品として、手作りの絵やアクセサリとかあり、ゲームをやった子もいました。最初イベントを手伝ってほしいと話をいただいたときに、内容がよく分からないのでどうしようかなと思いましたが、第1回懇談会のときに、座長から各分野の連携という話もあったので、今回の懇談会の例えば商業・観光とかのヒントがあるのか、それから、今社会的に課題になっている少子化対策やら高齢者の社会的孤立、世代間の対立のヒントがないかなと思い参加した。事業所から協賛金をいただいたり、ポスターやチラシの関係で御協力いただいた方もあり、出店した小学生と保護者が約160名、運営スタッフは私も含めてボランティア20名、お客様が約320名で、合計500名の方にいらしていただいて非常に盛り上がった。羽村にはこんなに若い方がいて、子供がこんなにいたんだというふうに思った。子供たちとのいい思い出になった。最後、今お越しの委員の方の中にも、イベントの周知で御協力いただいた方や実際にお客様で来ていただいた方もいらしたので、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思う。

(事務局) 事務局から二点連絡事項があります。一点目は、本日の会議録については、これまでと同様に事前に御確認をいただき、次回第5回の懇談会冒頭で訂正等を確認させていただきたい。会議録案が調整でき次第御連絡いたしますので、よろしく願いしたい。二点目は、次回第5回の懇談会について、日程は10月2日金曜日午前10時から、会場はiホールになりますので御予定をお願いしたい。また、今後の懇談会の日程の御案内をさせていただく。第6回が11月6日金曜日で最後第7回が11月27日金曜日でいずれも午前10時から、こちらのiホールで予定しているのでよろしくお願いしたい。

(事務局) 冒頭に委員から、資料1の5「いただいた御意見について」の下から三行目「産業振興に生かして」の記載について、活の字ではないかといった御意見をいただきましたが、市が発する文章では文化庁が定めている常用漢字表を基準にしておりますので、その中で「生かす」は「生」という漢字を使用するとしておりますので「生」の漢字で標記させていただきたいと存じます。それでは、本日は長時間にわたり、御協力をいただきありがとうございました。これで会議を終了させていただきます。ありがとうございました。